

わかりやすい粕屋町の財務書類

～新地方公会計制度に基づく財務書類～

財務諸表で見えてくる粕屋町の財政状況

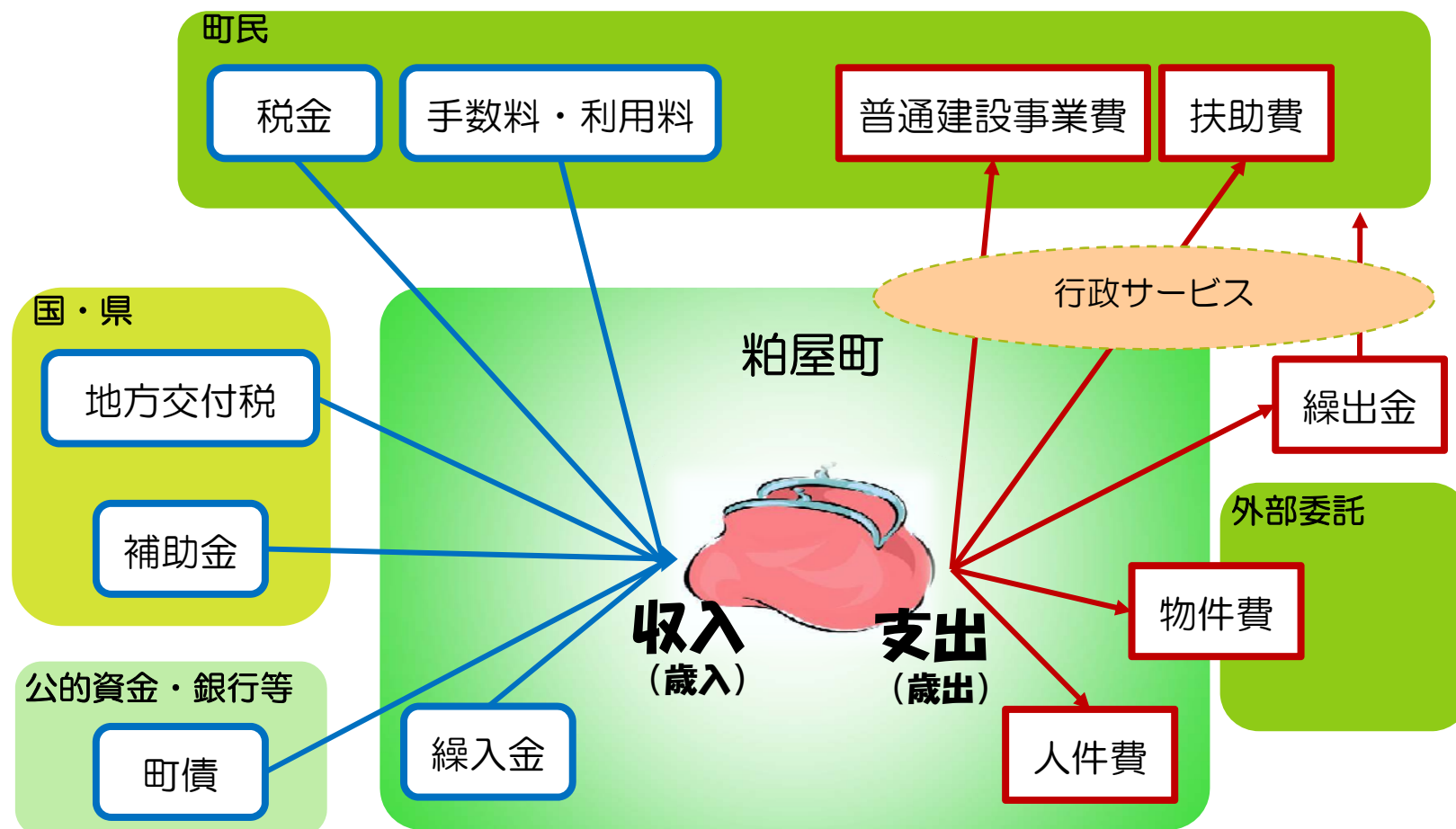
第1号 一般会計編

平成23年3月

粕屋町 経営政策課

粕屋町の財政

『財政』とは… 住民の皆様から納めていただく税金や使用料、国・県からの補助金・交付金などの収入や借入金などの収入を、みんなのためにどんな目的に使うかを決めて執行する仕組みです。 — 収入 — 支出



<わかりやすい用語の説明>

収入（歳入）



- ・ 地方交付税とは？ 国は、どの地域に住む国民にも一定の行政サービスが提供されるように、国の収入（所得税・法人税・酒税など）から、一定の割合を地方公共団体の財政状況等に応じて配分されるお金
- ・ 補助金とは？ 国や県などが、市町村の事務や事業に対して補助するお金
- ・ 町債とは？ 町が事業を実施するために国や金融機関から借り入れる借入金
その返済が2年以上にわたるもので、中長期にわたり返済します。
- ・ 繰入金とは？ 収入の不足を補うため基金から繰り入れるお金
(家計での定期貯金の取り崩しに相当します。)

支出（歳出）

- ・ 普通建設事業費とは？ 道路、橋、公園、学校等の公共施設の建築費、大規模修理など社会資本の整備に使われます。
- ・ 扶助費とは？ 法に基づき高齢者や子ども、障がい者などを援助するために使われます。(給付されるお金や物品 例:子ども手当など)
- ・ 繰出金とは？ 特別会計に支出する経費(下水道事業など)
- ・ 物件費とは？ 物品購入、光熱水費、業務委託料など
- ・ 人件費とは？ 職員の給与や議員の報酬など

Q.借金(町債)をするのは、なぜ？



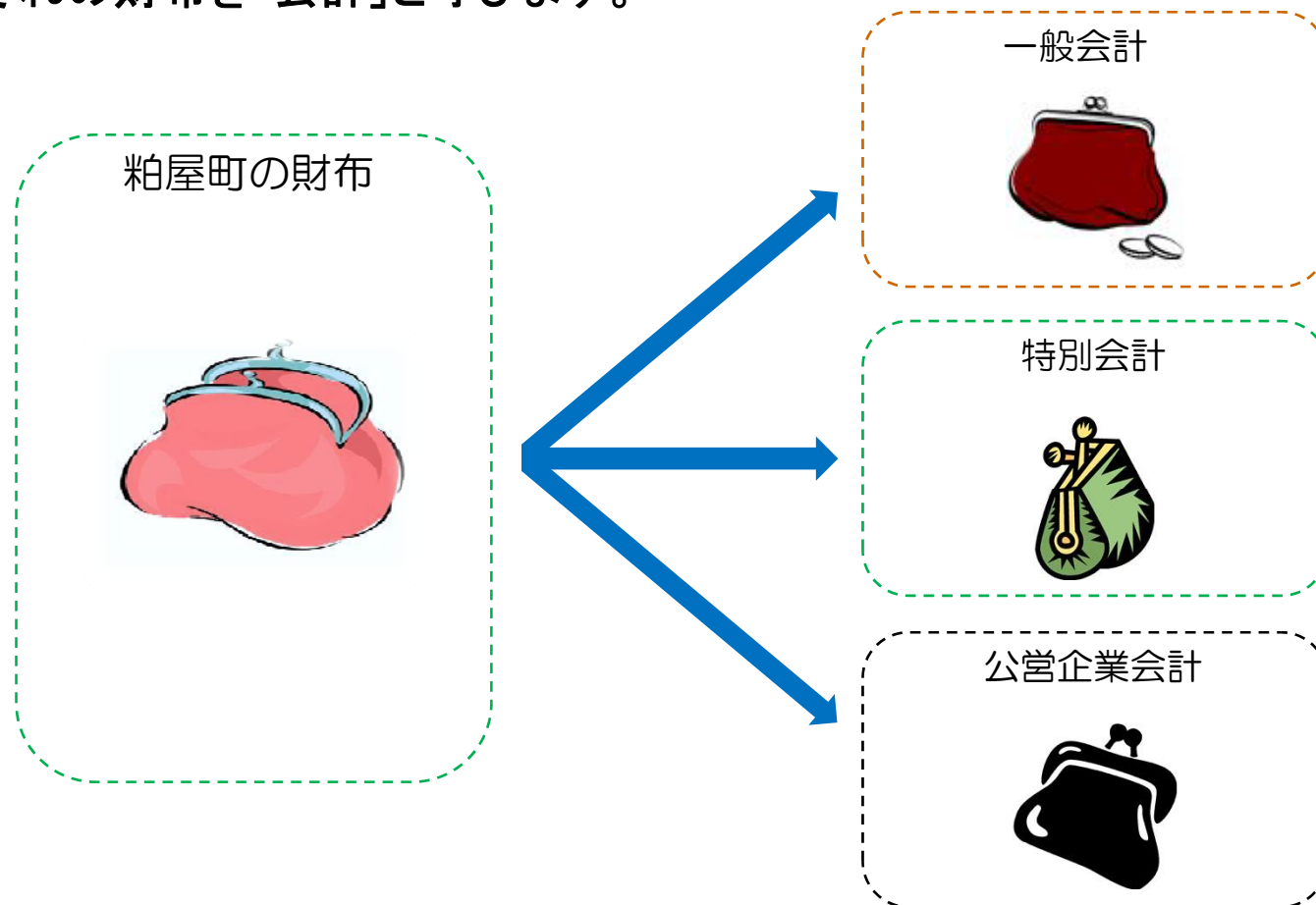
- A. 学校の耐震化工事や公共施設の建設、道路を整備するためには一度に多額の工事費等の経費がかかります。
そのためその経費を国や銀行などの金融機関から借金をしています。

支出(歳出)は、借金をせずに町債以外の収入(歳入)で賄うことが原則ですが、大規模な工事等多額な場合には資金繰りという面だけでなく、これらの社会資本整備のための費用については、将来世代の町民にも公平に負担してもらうことが公平であることから、粕屋町では国が借金(起債)することを認めた事業については町債を支出(歳出)の財源としています。

でも、できるだけ将来世代に借金を残さなくてすむように節約に努めていかなければなりません。

粕屋町の会計

粕屋町(地方自治体)の予算は、「一般会計」「特別会計」「公営企業会計」の3つの会計があります。いくつかの財布に分かれお金の出し入れ(収支)をしています。それぞれの財布を「会計」と呼びます。



区分

概要

平成23年度の全会計予算
217億2575万円

一般会計



高齢者や障がい者のための福祉事業、学校、道路、公園等の整備、運営など、生活全般に関係する事業に必要なお金を経理する会計です。みなさんに納めて頂いた税金はここに入ります。

家計に例えると生活費に使うお金を出し入れするお財布

平成23年度の当初予算の額は、
123億600万円です。

特別会計



原則かかった経費が、保険料など入ってくるお金でまかなうために一般会計とは別にしています。

- ・国民健康保険事業
- ・介護保険事業
- ・後期高齢者医療事業
など

粕屋町には5つの特別会計があります。

平成23年度の当初予算の額は、
57億574万円です。

公営企業会計



民間企業と同じように、利用した人から料金をもって（事業で収入をあげて）、かかる経費をまかなっている事業になります。

水道事業

平成23年度の当初予算の額は、
12億4001万円です。

流域関連公共下水道事業

平成23年度の当初予算の額は、
24億7400万円です。

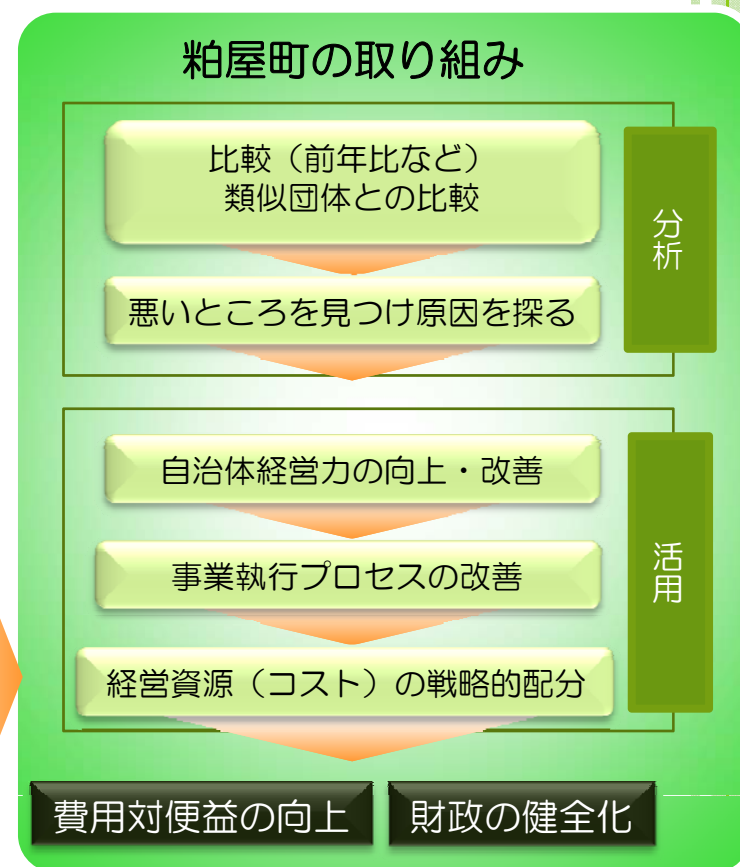
公会計制度を導入する目的

町の経営資源を把握して、その有効活用方法や改善策を検討し行政改革を推進することが公会計導入の目的です。

- ▶ **町内の経営力強化** 町民視点・経営的視点の行政運営を目指します！
- ▶ **説明責任の履行** みなさんの「疑問」に的確にお答えします！



開示

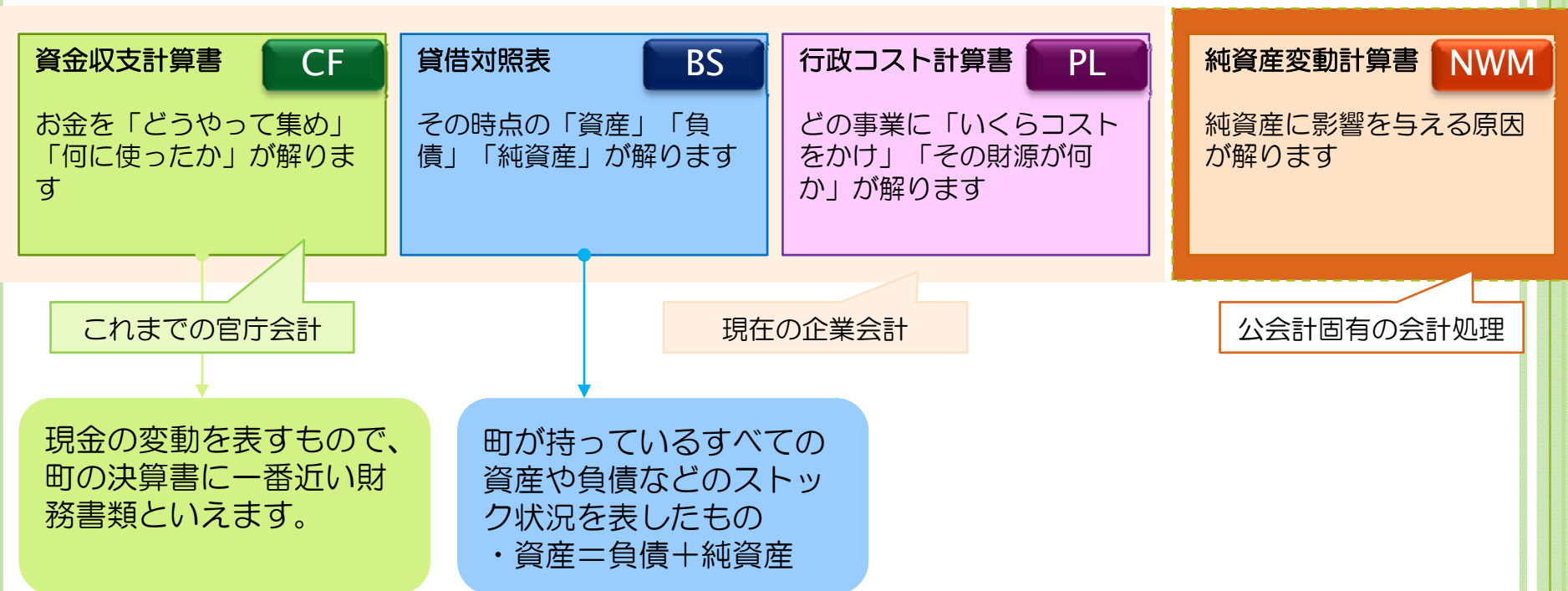


財務書類とは？

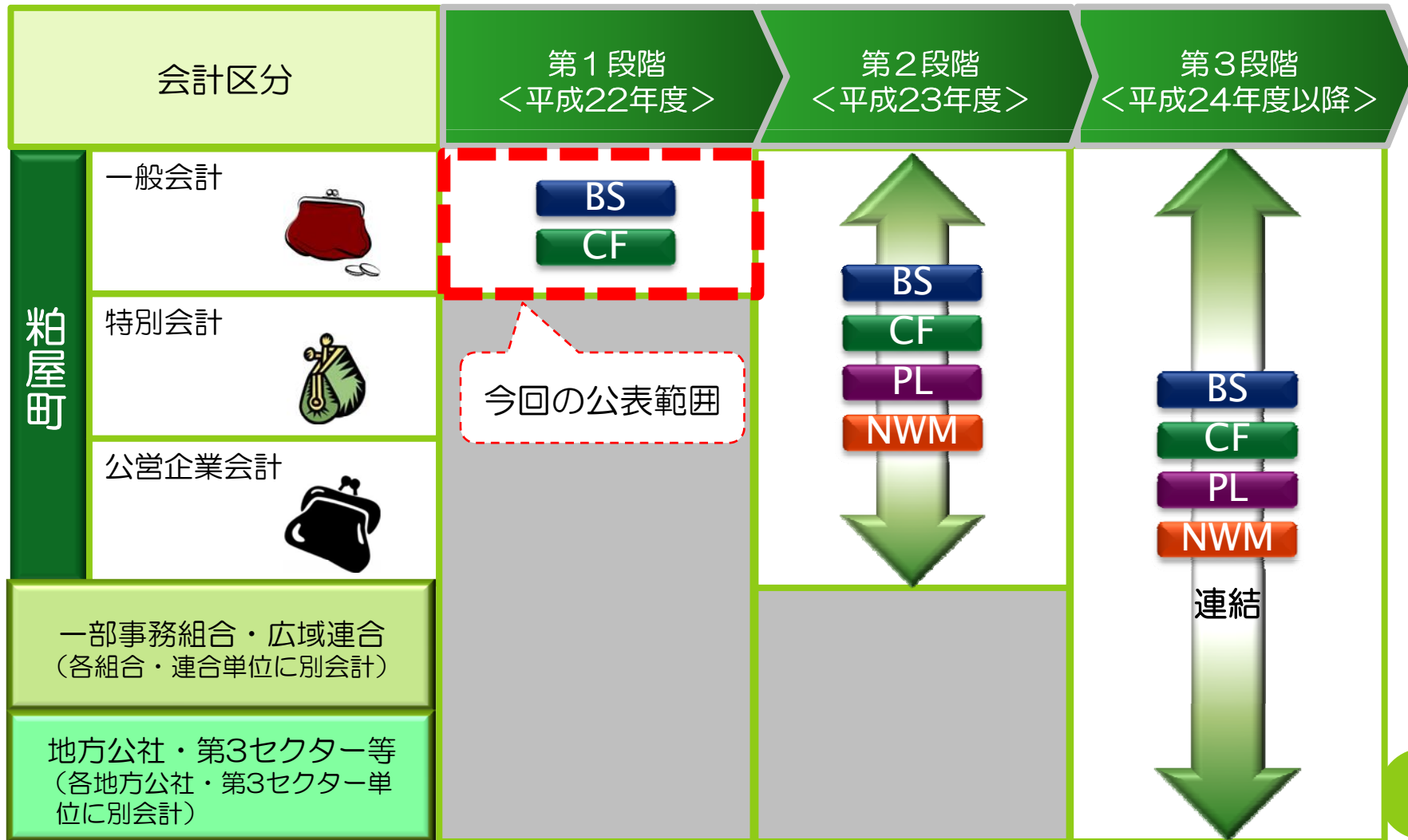
- ・CF : Cash Flow statement
- ・BS : Balance Sheet
- ・PL : Profit and Loss statement
- ・NWM : Net Worth Matrix



これまでの、官庁会計に企業会計の考え方を取り入れて粕屋町は以下の4表を「基準モデル」で整備しています。



粕屋町では、基準モデルでの資産台帳整備を進めてきました。
 今回(第1号)は、一般会計の貸借対照表(BS)と資金収支計算書(CF)を公表します。
 平成23年度は粕屋町全体の会計の4表を作成して公表し、平成24年度には一部事務組合や地方
 公社などの財務諸表と連結できれば合せて公表をしていく予定です。



貸借対照表 (BS)

(単位：円)

借方

貸方

【資産の部】		【負債の部】	
1. 金融資産	5,320,037,009	1. 流動負債	1,557,454,798
(1) 資金	653,111,602	2. 非流動負債	12,317,692,906
(2) 金融資産(資金を除く)	4,666,925,407	負債合計	13,875,147,704
2. 非金融資産	44,249,068,319	【純資産の部】	
(1) 事業用資産	27,981,818,589	純資産合計	35,693,957,624
(2) インフラ資産	16,267,249,730		
(3) 繰延資産	0	負債・純資産合計	49,569,105,328
資産合計	49,569,105,328		

- ・ 資産 町が所有する財産や権利
- ・ 金融資産 資金及び債権、有価証券等の資産
- ・ 資金 現金及び3ヶ月以内の預金など
- ・ 金融資産(資金を除く) 現金及び3ヶ月以内の預金以外の金融資産
- ・ 非金融資産 土地・建物などの固定資産で長期に利用するもの
- ・ 事業用資産 売却可能とされた資産
- ・ インフラ資産 売却ができないとされた資産
- ・ 繰延資産 支払いが完了(又は支払義務が確定)した金額の効果、将来に発生するもの。開発費など。

- ・ 負債 支払い義務のある金額
- ・ 流動負債 支払い期限が1年以内に到来する負債
- ・ 非流動負債 支払い期限が1年を超えて到来する負債
- ・ 純資産 これまでの世代が負担して町の資産となったもの

解りやすく例えると・・・



貸借対照表(BS)

借方		貸方	
資産 496億	金融資産 53億 ・ 資金及び債権、有価証券など	負債 139億	将来世代の負担となる債務 (将来世代が支払うことによって、 町民の資産になるもの) ▶ 支払義務がある 
	非金融資産 事業用資産 280億 ・ 有形固定資産 (土地、建物など) ・ 無形固定資産 (著作権、ソフトウェアなど) ▶ 売却可能とされた資産 		純資産 357億
	インフラ資産 163億 ・ 道路や下水道など ▶ 売却できないとされた資産 		

貸借対照表(BS)から見えてくること

将来世代に残る資産はどのくらいあるのか？

●町民一人あたりの資産 → **約117万円**
= 資産合計 ÷ 人口(42,267人[平成22年3月末])
類似団体の平均的な値は、150万円程度

●歳入額対資産比率(※1) → **4.3年**
= 資産合計 ÷ 歳入総額(11,581,550千円)
類似団体の平均的な値は、4年程度

※1：歳入額対資産比率

道路、橋、公園、校舎などの社会資本の整備度合を示しています。この比率が高いほど社会資本の整備が進んでいると言えますが、今後の維持負担を考えますと、一概に比率が高いから良いというものではありません。



将来世代とこれまで世代の負担は適切か？

●純資産比率 → **72.0%**
= 純資産 ÷ 資産合計
類似団体の平均的な値は、60%~70%

●社会資本等形成の世代間負担比率(※2) → **80.7%**
= 純資産 ÷ (事業用資産 + インフラ資産)
類似団体の平均的な値は、50%~90%

※2：社会資本等形成の世代間負担比率

社会資本の整備結果のうち、これまで世代が負担した割合を見ることができます。粕屋町は、社会資本の約8割をこれまで世代の負担で整備し、残り約2割を将来世代に負担してもらうことになります。



財政の維持可能性は大丈夫か？

- 町民一人あたりの負債 → 約**33万円**
= 負債(貸方)÷人口
類似団体の平均的な値は、70万円程度

粕屋町の一般会計における資産形成については、非常に「良好」な状態と言えます。
今後もさらに良好な状態となるように取り組んでいきます。



プライマリーバランスとは？

プライマリーバランス『基礎的財政収支』

借金である町債の利子や元金償還金を除いた支出と、町の借入金を除いた
＜収入のバランス＞をみるものです。

$$\begin{aligned} & \text{収入総額(繰越金を除く)} - \text{地方債発行額} - \text{財政調整基金取崩額} \\ & = \text{基礎的財政収入額} \cdots A \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & \text{支出総額} - \text{地方債償還額} - \text{財政調整基金等積立額} \\ & = \text{基礎的財政支出} \cdots B \end{aligned}$$

$$\text{基礎的財政収支} = A - B$$



資金収支計算書(CF)

【経常的収支区分】

(単位:円)

I. 経常的収支	1,543,187,036
1. 経常的支出	8,808,460,443
2. 経常的収入	10,351,647,479

【資本的収支区分】

II. 資本的収支	△ 382,740,198
1. 資本的支出	485,822,673
2. 資本的収入	103,082,475

基礎的財政収支	1,160,446,838
---------	---------------


【財務的収支区分】

III. 財務的収支	△ 1,010,603,758
1. 財務的支出	1,625,367,758
2. 財務的収入	614,764,000

当期資金収支額	149,843,080
期首資金残高	503,268,522
期末資金残高	653,111,602

- ・ 経常的収支 行政運営において、毎年度継続的に収入、支出されるもの
- ・ 経常的支出 行政運営において、毎年度継続的に支出されるもの
- ・ 経常的収入 行政運営において、毎年度継続的に収入されるもの

- ・ 資本的収支 道路や学校、公園など主に公共資産形成のための支出
- ・ 資本的支出 公共資産形成のための支出
- ・ 資本的収入 公共資産の売却及び資産に対する補助等

- ・ 基礎的財政収支 プライマリーバランスともいう 
- ・ 財務的収支 地方債等の元本償却等の支出と地方債発行等の収入の収支
- ・ 財務的支出 地方債の元本償還や支払利息など
- ・ 財務的収入 地方債の発行や借入金等による収入

- ・ 当期資金収支額 平成21年度の収支結果（経常的収支＋資本的収支＋財務的収支）
- ・ 期首資金残高 平成20年度末資金残高
- ・ 期末資金残高 平成21年度末資金残高



家計簿に置き換えてみると・・・



資金収支計算書(CF)

単位：円

粕屋町の予算の「約2000分の1」に置き換えて
年収550万の家庭簿に例えて表現してみると・・・

期首資金残高	5億327万	←平成20年度の現金の残り	
収入	租税収入	62億7937万	税金
	経常業務費用収入	4億100万	利用料や手数料
	移転収入	36億7129万	国や県からの補助金など
		103億5165万	
支出	経常業務費用支出	41億6771万	
	人件費支出	20億1448万	議員報酬、職員給与、退職金などにかかる費用
	物件費支出	5億8228万	光熱水費、通信運搬費、物品購入費などの費用
	経費支出など	15億7095万	業務委託費などの費用
	移転支出	46億4075万	
	他会計への移転支出など	12億5382万	特別会計への繰出金
	補助金等移転支出	23億6657万	補助金など
		10億2037万	子ども手当や障がい者支援費などの福祉や医療にかかる費用
		88億846万	
経常的収支	15億4319万		
資本的収入	1億308万	公共資産形成の国県補助等	
資本的支出	4億8582万	公共資産形成のための支出	
資本的収支	▲3億8274万		
財務的収入	6億1476万	町債（国や金融機関からの借入）などの収入	
財務的支出	16億2537万	町債や借入金元金償還や支払利息による支出	
財務的収支	▲10億1060万		
	1億4984万	21年度の収入と支出の差	
期末資金残高	6億5311万	平成21年度の現金の残り	

21年度収支

かすや家の家計簿（1年間）

項目	金額（円）
貯金	25万
給料	314万
パート収入	20万
両親の年金	184万
家のリフォームの公的補助	5万
銀行からの借入	31万
収入計	579万
食費	101万
衣料	29万
家賃・光熱水費	79万
長男への仕送り	63万
親戚への援助・慶弔費	118万
両親の医療費	51万
家のリフォーム	24万
ローンの返済	81万
支出計	546万
収支	33万

資金収支計算書（CF）から見えてくること

財政に維持可能性があるか？～どれくらい借金があるか？～

●基礎的財政収支 → **11.6億円**
= 経常的収支 + 資本的収支

●地方債償還年数（※3） → **7.4年**
= 地方債残高(BS) ÷ 経常的収支額
類似団体の平均的な値は、3年～9年

※3：地方債償還年数

町債を経常的に確保できる資金で返済した場合に何年で返済できるかを表し、債務返済力を測ることができます。



行政サービスは効率的に提供されているか？

●町民一人あたりの人件費・物件費 → **6.1万円**
= (人件費 + 物件費) ÷ 人口
類似団体の平均的な値は、10万円程度

一般会計における収支についてのプライマリーバランス「基礎的財政収支」は、約11.6億のプラスとなっています。

これは、収入の方が支出よりも多く、貯金や借金の返済ができる状態にあるということになります。